別添資料 3

中城湾におけるトカゲハゼ個体数の経年変化について

1. 中城湾におけるトカゲハゼ個体数の変化傾向

中城湾全体および泡瀬地区におけるトカゲハゼ成魚個体数の経年変化を図 1 に示す。

中城湾全体では、長期的な変化傾向としては時期によって増減がみられているものの、近年では平成 22 年度以降減少傾向の後、平成 28 年度頃から増加する傾向がみられている。

新港地区では中間育成個体の放流を実施していた平成 10 年度から平成 17 年度頃までは多くの個体が確認されていたが、それ以降は減少傾向となっている。平成 30 年度以降はやや増加傾向となっている。

佐敷東地区では増減を繰り返しており、平成 22 年度以降減少し、平成 28～29 年度の夏季に一時的に増加したが、平成 30 年度に減少、令和元年度以降増加する傾向がみられている。

泡瀬地区では個体数の増減を繰り返しているが、工事着工以前と比べると同程度かそれ以上となっている。令和元～2 年度には個体数の減少がみられたが、令和 3 年度には再び増加した。

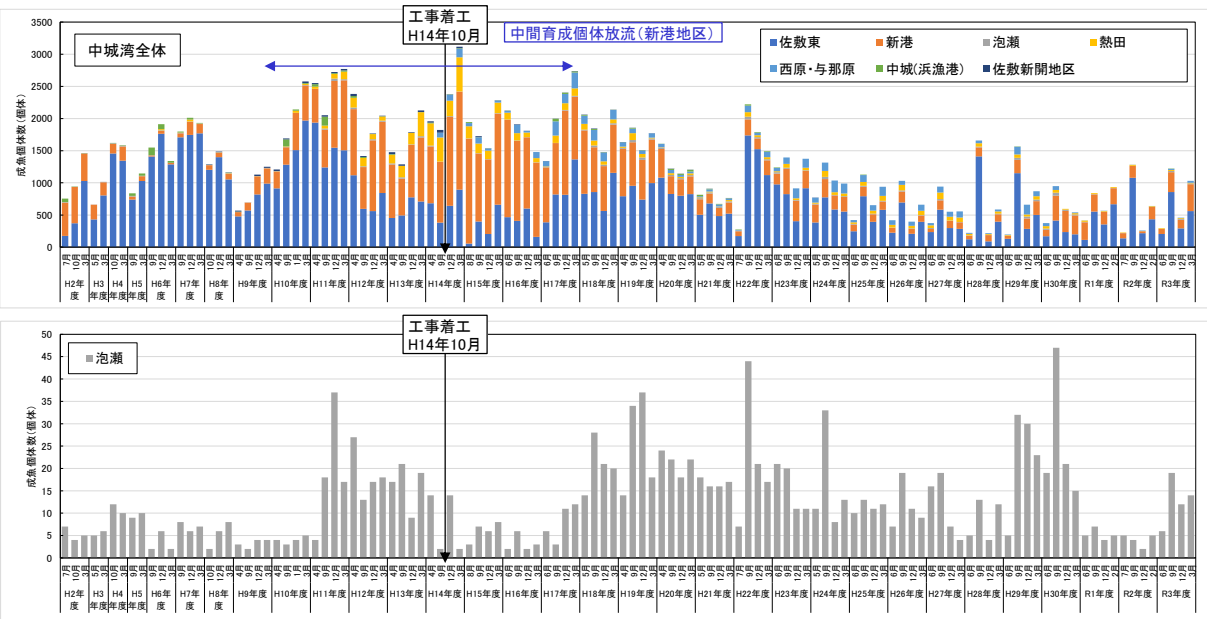

図 1　トカゲハゼ成魚個体数の経年変化（上：中城湾全体、下：泡瀬地区）

2. 泡瀬地区と佐敷東地区の比較

泡瀬地区および佐敷東地区のトカゲハゼ成魚個体数の経年変化を図 2 に示す。

中城湾におけるトカゲハゼの最大の生息地である佐敷東地区と比較すると、平成 11 年度以降については泡瀬地区、佐敷東地区共に比較的同様の傾向で増減を繰り返している。

近年では工事着工以前と比べて泡瀬地区では同程度かそれ以上の個体数が確認されていることや、減少傾向の後増加する傾向もみられていることから、泡瀬地区の人工島の工事に伴う一方的な変化があったことはうかがえない。

ただし、佐敷東地区では令和 2 年度から、泡瀬地区では令和 3 年度に増加がみられているが、この増加が一時的なものであるかは不明であることから、今後もモニタリングを継続していく。

中城湾においては佐敷東地区がトカゲハゼ供給源になっていると考えられており、トカゲハゼの保全を考えたときに泡瀬地区だけでなく、中城湾全体、特に佐敷東地区における保全対策が重要と考えられる。

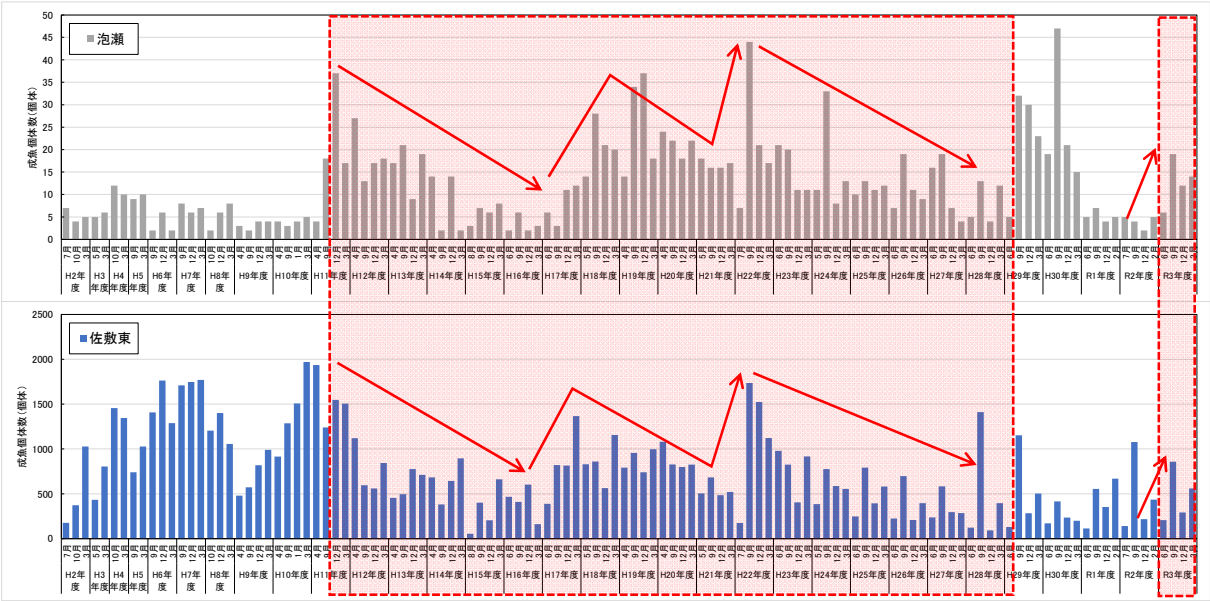

図 2　トカゲハゼ成魚個体数の経年変化（上：泡瀬地区、下：佐敷東地区）

（参考）中城湾におけるトカゲハゼ着底稚魚個体数の経年変化

中城湾全体におけるトカゲハゼ着底稚魚個体数の経年変化を図 3 に示す。

近年では平成 22～24 年度に着底稚魚個体数が比較的多く、その後は減少する傾向が見られる。

令和元～2 年度は佐敷東地区を除いて、中城湾全体で着底稚魚個体数が少ない状況であったが、令和 3 年度には個体数が増加しており、直近 5 ヶ年では一時的な減少から徐々に増加する傾向となっている。

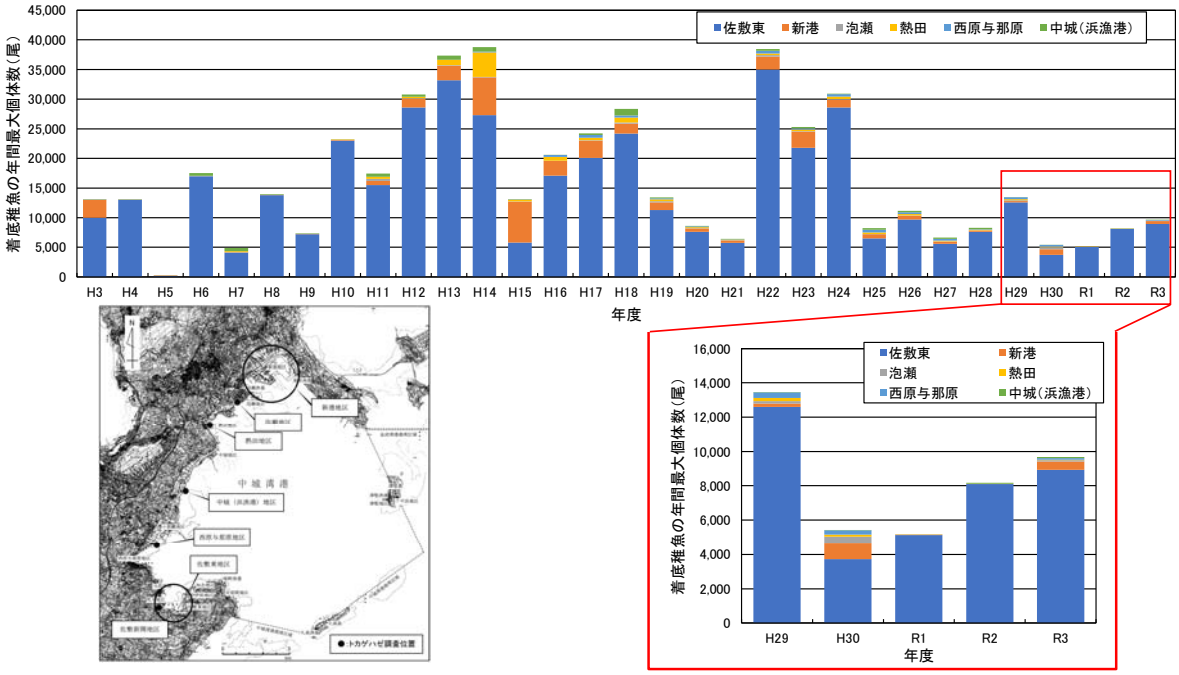

図 3　中城湾全体におけるトカゲハゼ着底稚魚個体数の経年変化